

外国人教師が学級担任

グローバル化に向けた英語教育改革の一環として小学校英語に注目が集まる中、特色ある教育活動を行っている小学校がある。相模原市緑区にあるLCA国際小学校(西村昭比古校長、児童221人)だ。同校は株式会社立

LCA国際小学校 (相模原市)

私立小学校で、教科指導を英語で行うイマージョン教育を導入。給食や掃除の時間など、クラス担任の外国人教師が指導するため、学校生活の多くが英語で行われている。目標に掲げるのは、卒業までに英検2級以上の英語力を習得すること。昨年度、帰国生ではない6年生の児童が英検1級を取得するなど着実に成果を上げている。

イマージョン教育を実施

英語で教科指導

目標は英検2級 1級取得の6年生も

「自分には良いところがあると思いませんか?」「何がしたい?」「何がしたい?」と聞かれたら、きちんと答えられる子どもを育てたい。それが元公立小学校の教師だった学校創設者、西村昭比古校長の思いだ。学校を辞めたから、まずは学習塾を開いた。「楽しいことも目を向け、ホームステイを経験しないと、子

の教師だった学校創設者、西村昭比古校長の思いだ。学校を辞めたから、まずは学習塾を開いた。「楽しいことも目を向け、ホームステイを経験しないと、子

程度、やりとりのフレーズなどを覚えて臨んだが、「想像以上に英語を話せない子どもたちの実態に驚いた」という山口学園長。それが英語との出会いになった。「英語がもう少し話せるから、子どもたちの思いを受け、次に開いたのは英会話学校の開校。しかし、力が伸びたのは自分でも英語が好きな子どもたち。力が伸びない理由を「英語を日常的に使っていないから」と考え、

リーディングと文法分け

まずは幼稚園で取り入れた結果、成果が出てから小学校に導入した。しかし、イマージョン教育でただ生活しただけでは、子どもが伸びる子と伸びない子がいることが明らかになった。45分の授業で、口数の少ない子どもはそれほど英語を話さないと終わってしまっていた。教科としての「英語」が、子どもが増えている。授業は週5、6時間ある。内容はリーディングと文法を分けて、リーディングを大事にする。1クラス約20人、話し合いがしやすい。考える力を引き出す。コミュニケーションを大事にする。

程度、やりとりのフレーズなどを覚えて臨んだが、「想像以上に英語を話せない子どもたちの実態に驚いた」という山口学園長。それが英語との出会いになった。「英語がもう少し話せるから、子どもたちの思いを受け、次に開いたのは英会話学校の開校。しかし、力が伸びたのは自分でも英語が好きな子どもたち。力が伸びない理由を「英語を日常的に使っていないから」と考え、

副担任置き 丁寧な対応

イマージョン教育に取組む学校の多くは、教員免許を持つ日



「自分には良いところがあると思いませんか?」「何がしたい?」「何がしたい?」と聞かれたら、きちんと答えられる子どもを育てたい。それが元公立小学校の教師だった学校創設者、西村昭比古校長の思いだ。学校を辞めたから、まずは学習塾を開いた。「楽しいことも目を向け、ホームステイを経験しないと、子

程度、やりとりのフレーズなどを覚えて臨んだが、「想像以上に英語を話せない子どもたちの実態に驚いた」という山口学園長。それが英語との出会いになった。「英語がもう少し話せるから、子どもたちの思いを受け、次に開いたのは英会話学校の開校。しかし、力が伸びたのは自分でも英語が好きな子どもたち。力が伸びない理由を「英語を日常的に使っていないから」と考え、

程度、やりとりのフレーズなどを覚えて臨んだが、「想像以上に英語を話せない子どもたちの実態に驚いた」という山口学園長。それが英語との出会いになった。「英語がもう少し話せるから、子どもたちの思いを受け、次に開いたのは英会話学校の開校。しかし、力が伸びたのは自分でも英語が好きな子どもたち。力が伸びない理由を「英語を日常的に使っていないから」と考え、